

◆テーマ

2050 年にも残したいくらいあなたのお気に入りの 京都は何ですか？

(風景・文化・食べ物・雑貨・風習・歴史・建物・お店・コミュニティなど)

投稿内容

1. 木屋町通と押小路通の境目の水辺と石橋が夕方にみるとすごくきれいです。この周辺の通りは景色が綺麗なので気に入っています。
2. 河原町や京都駅前、観光地はガヤガヤしていいと思うが、住宅街や山間部、京北地域など静かなところを残すのも必要と感じます。
3. 静けさとコミュニティの安心感
4. 歩くだけで歴史と趣を肌で感じる
5. 歴史を感じる
6. 古いものを大切にし、新しいものを取り入れて来た柔軟さがあった。一部で目立つ、一切の変化を受け入れない姿勢では街は遺跡となり、京都が京都でなくなる。ひとつの理想を押し付ける窮屈さより、TPOに合わせて変化させ受け継ぐ姿勢の方が京都らしく、楽しさもある
7. 長野宇平治は、日本銀行京都支店（今の京都文化博物館別館）も、台湾総統府も設計した。京都の中の建物1つとっても、建築設計という当時の先端の営みを通して、海外と直接繋がりがあることは、京都が文化的な集積地であることを感じる。
8. 古い京都の景観を感じられるから
9. 京都らしいし、文化に触れられるから
10. 清水寺の秋の紅葉の景色や大文字の送り火がお気に入りです
11. 美しい

12. 青少年活動センターや京都芸術センター。京都は大学生が多い町で大学を超えた友達も多くつくれます。私たちの活動できる場が多く確保されていて、京都で学生時代を送れて良かったと今から思っています。
13. 愛宕山と比叡山が眺められる、開けた場所。史実とエリア、映像芸術がリンクする稀有な空間。
14. ふつーに能面好き 小面かわいい
15. めっちゃおいしい京菓子だから!!
16. オシャレなビルが多い。周りの建造物に合わせたり和風にしたりと色々なデザインがある。均質的と一蹴する人もいるが、そうは思わない。景観を破壊するどころか新たな魅力的な景観を作り出している。高さを規制するよりデザインを誘導した方が、綺麗で変化に富んだ面白い街になると思う。
17. 観光地として、誇りを、もっともちたい。
18. 古都京都だから、歴史会館みたいなのが欲しい
19. 古都京都だからこそ文化がある。
20. 便利で市民、観光客から利用されている。世界的な観光都市の京都を縦横無尽に駆け回り、産業を下から支えているところ。
21. 近所の人たちが朝立ってきゃっきゃ話しているのを見ると、「平和だ」と穏やかになれる気がします。それに、打ち水をしている老舗のお店を見ると、伝統を受け継いで今もなお残しているその行動を見ると、幸せだと思います。だから残しておきたい
22. 現状では環境に逆行し、温暖化に終止符は出来ません。朝早くからのお説法・読経・座禅・釈迦の教えを宗派毎に行って頂き 観光客の心に残る京都の観光を再考して頂きたいです。 お願いします。
23. 京都の鴨川のきれいな水と泳ぐ鴨の様子が好きです。鴨川で羽を休めるサギをみるのもすごい気持ちが落ち着くと思います。鴨川にやってくるサギはすごく人になれていて、半径2メートルの距離に人がいても怯えて逃げることはありませんでした。河原の方にまでやってきて、砂の上にちょこんと立っている姿はとても癒されます。近くにいた人がサギに話しかけていて、仲の良さが見て取れました。よく鴨川にやってくるサギなのかもしれません。京都の古くからの家などをバックに川で水あびをしている鴨や魚を探している(?) サギを見ることができるのは京都ならではの楽しみではないでしょうか。

34. 平安神宮の帰りにたまたま見つけた小さなお稲荷さん。名前が気になって中に入ってみると、意外にも多くの面白いものがある、小さいながら満足できました！本当に名前の通りです。
35. 花見シーズンは桜がきれいです。花見シーズンが過ぎると人通りも少なく、静かで自転車でよく走りに行ってます。道はきれいなので走りやすく川が流れていて、山沿いでもあるのでいつでも自然を感じることができます。
36. 大きな鳥居はまるで、「京都にようこそおこしやす。」と言わんばかりで、その迫力から元気をもらうことができる。それに加えて神苑のなかは圧倒される美しさで、四季折々の魅力を感じることができる。
37. 京都や日本の伝統産業を守っておられる企業なので 外国人に町家を買わせないでほしい
38. 通行時、苔が視界に入るとほっこりします 無機質なアスファルトの端（人や車の通行に支障がない）をもっと苔で覆われればいいのにと日々思っています
39. 画一的な大手のお店やチェーン店ばかりの京都に魅力はありますか？少し古いけど町家のお店、個人商店ひしめく商店街、昔ながらの商習慣の商い、看板の色や路上のみ出しなど厳しい制約ばかりで資本力のない個人商店は制度についていけない一面もある。もう少し柔軟な対応で、素敵な雰囲気個人商店、町家のお店を見守って欲しい
40. 漫画が読める。
41. 歴史の中に住まう京都。瓦屋根の京町家など路地を少し入ったところにある京都らしい町並み。
42. 市役所の屋上から見た空。晴れていれば、青空が広がっているときも。夕焼けがきれいな時も多い。
43. 川端通付近の何も保護はされていないけど自然と残っている感じの民家ぐらいがいい
44. 1894年から残るモダン建築 にぎやかな街中にあるけどふらっと入るとしんと静まり返っている落ち着いた建物。絶対になくなってほしくない
45. 地蔵盆とか、朝の挨拶とか、ちょっとした立ち話とかその和やかなかわり
46. 早朝だと外国人が少なく、ご飯が食べれるから。

47. 鴨川から見る自然がとっても好きです。また、鴨川の近くにある、賀茂御祖神社の内部がとっても好きです。賀茂御祖神社のに入ると、自然豊かで、木の匂い、木の音などが楽しめます。また、近くにあるみたらし団子のお店のみたらし団子がとてもおいしいです。

48. ふらっと立ち寄れる、受け入れる文化 風景と人の温かさが作り出す京都らしさ

49. 鴨川から見える山紫水明の風景は、人々を魅了し、世界中から人を引き付ける京都の大きな財産。京都が「住みたいまち」、「訪れたいまち」に選ばれる重要な要素。

50. 京都市の北の山に美しい谷、山国があります。上桂川が流れていて、農業と自然豊かな場所です。京都御所との歴史が深いお祭りや都の建物を育てた林業、夏は鮎釣りの名所としてたくさんの方が夜明けから足運んで来ています。少子高齢化のなか、家族で移住するアピールとして最高の場所です。美味しい小粒の山国納豆でもよく知られています。山国で子供が増えてますます豊かな産地であることを 2050 年においてほしいです。北陸新幹線延伸の脅威の中、山国で地上に出る新幹線があったら、鮎釣りに来る人も自然を楽しめなくなることから始め、家族で移住することのアピールが全くできなくなります。山国の美しさが追い越されます。山国が死にます。そんな 2050 年を迎えたくないの、今の風景の山国が 2050 年に残してあることをみたいです。（披露宴の花嫁姿は村山木工のデッキからです。新幹線が通ると正にこのシーンが無くなります。）

51. 歴史と自然、文化が京都らしさだと思う

52. 京都の住民が親子で会話をすれば、必ず京都の文化や歴史にまつわる話題が出てくる。それほど身近にそれはある。実家にも学生時代のバイト先の料亭にも井戸水があったし、母の実家、京北には綺麗な川が流れ、美味しいお米、お酒も作られている。時間は有限で、上手く使う工夫をするから文化になる。多くを犠牲にして通した北陸新幹線で簡単に得た時間は決して得ではないし文化にならないと思う。

53. 水が豊かな京都。新幹線を通らせず、このままの自然を守ってくれる京都であるといいなと思います

54. みんな思い思いに寛いでいるところ。学生の街。アカデミック。大きな樹木たちを活かしている。自転車での交通が便利な街の規模が丁度良い。

55. 京都を囲む山々を水源とした河川や、京都の水瓶である地下水…それらの美しく豊かな水に育まれてきた、日本を代表する京都の伝統文化の数々。京料理、京野菜、豆腐、清酒、和菓子に茶文化や染織ほか…そして美しい景観。これからも世界に誇れる京都ブランドを残していただきたいです。1000年の歴史を育んできてくれた美しい水(日本人の心)を、北陸新幹線延伸によって濁らせ、枯らされませんように。美しい自然・文化・心を、2050年以降も残せますように。
56. ビルが立ち並ぶ街並みは要らない。道の向こうに見える山々。豊かな水の流れ。安っぽくない木造建築。小さなお商売が街を支える。北陸新幹線トンネルでの延伸は中止になり、良かったねと笑い話になっている。そんな2050年であって欲しい。そして、仁和寺前のホテル計画も中止。守られてきた風景をこれからも守る京都でありますように。
57. 賀茂川から見る北山、東山の美しさ。そしてその水の源の山々の素晴らしさ。自然と文化が調和した街。
58. 古都として栄えている街でありながら、街から近い場所に美しい自然が楽しめる里山を持っているのが京都の魅力。自然はかけがえのないものですからね。今心配な新幹線の計画なども進みつつあるようですが、開発、破壊してしまっただけでは京都の魅力は激減します。何が大切なのかよく考えて、思いとどまって欲しいです。
59. 昔ながらの店が減ってきて雰囲気は変わりつつあるが、長年頑張られてる店を減らして欲しく無い。
60. 地下の水脈に影響を与えるトンネル、川の水が減り、山の保水量にも影響を与えかねません。
61. 2050年京都市の人口は約124万人で、2024年人口と比較して約20万人減少すると想定されている。また、少子高齢化が一層進み、子どもの出生数は年間約5,000人程度(令和4年出生数:8,186人)になると想定されている。こうした状況を踏まえ、子育て世代に経済的な負担を軽減させ、子育てを社会全体で支える(地域で子育てを見守り孤立化を防ぐ)仕組みを構築し、安心して出産し楽しく子育てができる社会の実現を目指す。具体的な取組として、子ども医療費の負担軽減や保育費・教育費の完全無償化、地域で子育ての悩みや相談を受けるなどあたたかく子育てを見守る「つどいの広場」のさらなる拡充を図るとともに、地域で社会福祉協議会などが主体的に運営している「子育てサロン」などに補助金を拠出して子育て応援事業の充実を図っていただく。なお、財源については、多くの富裕層に”子どもは社会の宝であり将来の社会の大切な担い手である”との共通理解を求めて協力していただくことを前提とし所得税を増額させる累進課税制度を積極的に活用していく方向で検討する。

62. 2050年京都市の人口は約124万人で、2024年人口と比較して約20万人減少すると想定されている。また、少子高齢化が一層進み、子どもの出生数は年間約5,000人程度（令和4年出生数：8,186人）になると想定されている。こうした状況を踏まえ、子育て世代に経済的な負担を軽減させ、子育てを社会全体で支える（地域で子育てを見守り孤立化を防ぐ）仕組みを構築し、安心して出産し楽しく子育てができる社会の実現を目指す。具体的な取組として、子ども医療費の負担軽減や保育費・教育費の完全無償化、地域で子育ての悩みや相談を受けるなどあたたかく子育てを見守る「つどいの広場」のさらなる拡充を図るとともに、地域で社会福祉協議会などが主体的に運営している「子育てサロン」などに補助金を拠出して子育て応援事業の充実を図っていただく。なお、財源については、多くの富裕層に”子どもは社会の宝であり将来の社会の大切な担い手である“との共通理解を求めて協力していただくことを前提とし所得税を増額させる累進課税制度を積極的に活用していく方向で検討する。

63. 街中からでも空が広く山が見える風景が好きです。駅を降りたときに、東京や大阪とは違う空気を感じます。大きなビジネスより、人が生きて生活がある小さなビジネス（伝統産業など）が京都の魅力なので、大型開発の北陸新幹線は不要だと感じます。ちょっと不便を楽しみたくて、大阪ではなく京都に住んでます

64. 北陸新幹線延伸工事が決まると、京都は終わりです。豊富な地下水や鴨川、桂川によって素晴らしい景観があるのに、全く市民や府民が望んでいないこの工事は京都の素晴らしさを全て台無しにしてしまいます。赤字路線に5兆もかけて、誰が得するんですか？ 国際的にも京都の恥にしかならないこの工事を今すぐやめて京都を守って下さい。この方の意見に賛成しております。

65. 北陸新幹線延伸工事が決まると、京都は終わりです。豊富な地下水や鴨川、桂川によって素晴らしい景観があるのに、全く市民や府民が望んでいないこの工事は京都の素晴らしさを全て台無しにしてしまいます。赤字路線に5兆もかけて、誰が得するんですか？ 国際的にも京都の恥にしかならないこの工事を今すぐやめて京都を守って下さい。

66. 安朱橋からの景色

67. こころがなごみます。

68. お寺さんのお話を直接聞くことができるのは、京都市内では大徳寺大仙院と鈴虫寺。とても少ないと思っている。宗教くさくなく、話題は身近でいて、話し方も気さくで面白いそして、よく考えさせられる。身近なことでも相談してもらっていた古き良き時代が少し垣間見える。そもそも寺社仏閣というのは観光地ではなく、日々の中の相談、迷い、といった負の感情を吐き出しに行ける場所ではなかったか。気持ちを調べ、人の精神活動をより豊かで温かなものにしてくれる。直接会話した訳ではないが、街を歩いていると、教訓のような言葉が見えるところに掲げている寺社も多い。自然と見守ってくれているようでありがたい。こういった営みは未来にも続いていてもらいたい。
69. 京都市の北部の山間地域。京都はいわゆるザ・京都な都市部だけではなく、北部の山間地域あつての京都だと思います。四季折々の美しい自然だけでなく、花脊・広河原・久多の松上げや久多の花笠踊といった伝統行事など、山間地域の人々の暮らしに息づいた魅力が盛りだくさんな地域です。写真は久多の北山友禅菊の風景。
70. 京都市小学校の給食。カレーやシチューはルーから手作りで、春巻きやトンカツも一つ一つ包んだり衣をつけて揚げたりしてくださっています。毎日調理員の皆さんが愛情込めて作ってくださる給食は、これからもずっと続いてほしいです。子どもの成長に欠かせない食事の一食が、このように温かく栄養バランス抜群で、地産地消の素晴らしい給食であるということは、本当にありがたいです!同じ義務教育である中学校でも、ぜひこのような学校ごとの手作り給食を取り入れていただきたいです。京北町の米や味噌も使われていたり、すぐきやにしんなすなど、京都らしいお料理も出てきて、自分の住んでいる京都という場所に愛着や誇りをもつきっかけにもなっています。どうか小学校だけでなく中学校でも同じような給食環境を提供してください。
71. 京都で唯一のサルサバー。ここがないと京都で踊れる場所がなくなってしまう。
72. 三方を山に囲まれ、寒暖差の激しい気候が京都の春夏秋冬の美しさを特徴づけている。昨今、危険な暑さや豪雨、暖冬が続くなど、四季のサイクルが昔と比べて変わってきているようで心配になる。これからも美しい四季が見られる京都を残していきたい。
73. 自然環境と人の暮らしが接して共存している集落の景観が気に入っている。また、都市での暮らしに、自然環境の資源を供給するために形成された集落として、京都の文化的な景観を残していきたい。
74. 地域企業、中小企業、昔からあるお店。何世代にもわたって通えるような利用できるようなお店や会社が、そこにあり続けることが、京都固有の経済圏を守り、文化を守り、地域を彩っていくと思う。後継者不在で廃業するのではなく、その企業やお店の想いをアトツギが受け継ぎ、次の世代へ託せるような人がどんどん生まれ、時代にアップデートさせながら、想いを紡いでいけたらいいなと思う。

75. ここのラーメンはおいしすぎるので、なくなったら本当に困ります。自分は第二の実家って呼んでいます。
76. 気に入っているポイント、、、難しいですね（苦笑）春になれば桜が満開になる唯一のお気に入りポイントですが、ここ数年は観光客が多すぎて行くことも少なくなりました。（もちろん観光客が多いのはここだけの問題ではありませんが、、、）何が言いたいかというと、今の京都で「風情があるよね」という言葉を聞かなくなったということです。今もオーバーツーリズムが深刻な問題ですが、もう少し落ち着いた印象の京都がいいなって思います。
77. 地域による地域のための小学校。京都が誇る歴史だと思います。これからも、当時の町衆の気持ちを受け継ぎ、地域のごことは自分たちで何とかする！何とかしたい！が叶う京都であってほしいと思います。
78. 様々な年代の人が集えるところ。若い方が銭湯のリノベーションを行うなど、古いものを現代にカスタマイズしながら引き継いでいこうとされているところ
79. 正に都会のサード・プレイス。楽器を弾いたり、踊ったり、走ったり、お弁当を食べたり、読書をしたり。皆さんが思い思いの時間を過ごされています。暮らしの文化、その層の厚さ、そして多様性への寛容さなど京都の魅力や“らしさ”がギュッと詰まっている場所だと思います。ここに宿る文化や精神がずっと残っていて欲しいと思います。
80. 区民体育祭などの小学校区単位の取り組み。最近、町ごとに取り組みの温度差があり、子供達の体験格差につながっているのが残念。
81. 京町家がリノベーションされたりして、現代でも活用されているところです。昔のままの姿で残そうとすると、問題の多さに誰にも使われずモニュメントと化し、寂れたテーマパークのようになってしまいますから。
82. 市外とのアクセスの良さは、京都にとってかけがえのない生命線です。これを失うことは、京都の活力を奪い、人口減少や経済衰退といった苦境へと直結してしまいます。そうなれば、これまでの京都人の不断の努力は水泡に帰してしまうでしょうね。京都は歴史の中で幾度も試練や変化に立ち向かい、それらを糧に成長してきました。その不屈の精神がこの歴史ある街を支え、今につながっています。先人たちの誇りと努力を胸に、今の課題にも果敢に挑み、明るい未来を創り上げていきたいですね！
83. 府立体育館で 第2日曜日午後に行われるイベント 誰にでもスポーツの機会があることが感じられる とても暖かいイベントです これからもずっと続いてほしい

84. 荒神橋東詰めからの 夕焼け 年に2回ほどの確率で空がピンクに染まります 盆地にありながら 空の広さが感じられる場所です
85. 京都らしい残したい暮らし、「それは路地の暮らし」ではないでしょうか？ そこを通る人は顔なじみの人。 マンションの共用廊下で立ち話する人はあまりみかけませんが、何故か路地だと立ち止まって話をする人がいる。そこは子供も安全に遊べて、環境にいい人中心の空間。世界でウォカブルなまちづくりが進められる中、路地は車が入れない。何百年も前からウォカブル。モータリゼーションより前からあるのだから当然かもしれないが。そこは家と人の関係も単なる不動産という物的なつながりではない 大家と借家人とのコミュニティ、生活文化マインドの共有が路地空間にはある。そこは防災の取組みも進みつつある 緊急車両が通行できない、避難経路が確保できない、延焼の恐れがあるということは脅威だ。しかし、コミュニティで乗り越えようとしている例もある。行政も色々な取組を推進している。最近では路地名を言えば消防車が来てくれるらしい。そこは京都の街が長い歴史の過程でつくられた空間 都市環境や街区構造が年々変化してく中で、色々な軋轢が生まれる。これからは何を指標にまちづくりを進めていくべきか。路地から学ぶことは多い。
86. 厳しく温かく社会全体で子育て支援、お年寄りの見守りなど地域コミュニティ（強制は×、今までこうやってた×、感謝だけがそこにある）
87. 知り合いの知り合いが繋がっている、たまたま出会った人がどこかで誰かと何かしら繋がっている、そんな偶発性が多く出現する距離感。
88. ゆったりと時間が流れるのが気に入っています！落ち着きます！
89. 大阪・東京などでは、大型商業施設の建てすぎで既存の大型商業施設からテナントがどんどん撤退し、廃墟のようになっているところが増えてきています。ベッドタウンでは閉店してそのまま放置されているところもあります。しかし京都市ではそういった様子はありません。商店街も元気なところが多いです。今後も新しい商業施設が建つと思いますし、まだ不足しているように感じるのでどんどん建って欲しいと思いますが、バランスも考えていけると良いですね。
90. 大阪ではグラングリーンが注目されていますが、京都の中心部には鴨川や梅小路公園、岡崎公園といった憩いの場が既にあり素晴らしい。南部にもそういった場所が増えると良い。

91. 新自由主義はもはや限界が見えているので、コストカットなどで「無駄を削る」という発想が市民の住みにくさを加速させる。行政は「儲ける」という発想とはそぐわない。新自由主義からの脱却が不可欠。自民党政治の間違いを糺す市政が求められる。残すべきはデジタル化ではない文化や歴史的建造物、大学、植物園や図書館や博物館、資料館、民具館、文化会館など市民の生活と関係のあるもの。水道などインフラも民営化してはいけない。工業試験所なども民営化してはいけない。京都の技術力の支えになっている。また街並み、街路樹、史跡など。開発ありきではいけない。北陸新幹線延伸は不要。リニアも不要。計画がスタートすると止められない、という時代にそぐわない旧態依然の国や行政の体質こそ残さずに変えるべき。小学校での素手で便器掃除というカルトの蔓延は残すことなく早急に止めるべき。行政の業務のデジタル化や電線電柱の地下化は進めていくべき。比較的地震の少ない京都なら市が主導してガス水道電気が協力して後のメンテも簡便になる方法での計画的なインフラ化に力を注ぐのがいい。新幹線やリニアにお金を使ってる場合ではない。
92. 400年つづく元庄屋のお屋敷。400年前に作られた時から自然を生かして作庭され、今もなお自然の摂理が存在している「生きている庭」がある。
93. 鴨川の飛び石！こういったものがある場所は少ないので残したい光景です。間隔の短い飛び石もあると嬉しい
94. 清水寺や金閣寺、銀閣寺などの歴史のある建物がすごくよいと思う。
95. 0歳から18歳まで、赤ちゃんも小学生も中高生も、いろんな子どもたちの居場所になっている地域にひらかれた児童館。京都には、そんな児童館が130館以上あるのが他都市と比べてもすばらしい！
96. 京都は四季折々に合わせた和菓子があり、和菓子で季節を感じることができます。
97. 街に暮らしながら、ふとした瞬間に心が揺れるような空が見えること。どうでもいいようで、案外大切だったりする。均一な都会に成り切らない、余白の残るまち京都。なんていい塩梅。25年後もこの空を、変わらず眺められたらいいですね。
98. 京都の商店街の立地はどこもととても良いですよ。でもシャッター商店街になりつつあるのも事実。若い人もチャレンジできるように何か工夫を。
99. 過去・現代・未来の融合！そこから生まれるギャップが面白い！全部同じような建物になってしまうと、見飽きてしまうし、個々の価値が下がってしまう。色んな時代・ベクトルの物が上手く共存する街であってほしいです。
100. 車が通らない空間で子供達が安全に遊べて大人も見守れる街のづくりがほしい

101. ホットとする空間、楽しい買い物歩き
102. 京都の桜の名所のひとつでありながら、公共地であることから、あまり名所扱いされないのが残念ですが、江戸期開削の高瀬川の景色と近年植えられた桜の景色は、ひとつ京都らしい景観です。
103. 雑然とした京都の都市景にあって、無電柱化が完了した先斗町の空は、本来の京都の美しい空景を見えています。
104. 洋食や中華の多い京都にあって、京都中華の代表である東華菜館さんの春巻きは欠かせません。
105. 京都という都市にあって、江戸時代以降の京都らしい景色の最たるものを現在に残されています。京都の商いの基本的な要素を詰め込み、質素に美しくその姿を残しています。
106. 平安京以降の京都形成にあって鴨川の景色の変遷と現在の様子は、京都らしい景観のひとつと言えます。
107. 数多くの文豪が愛し過ごした庭園景。
108. 鯖街道の京都側起点にあたる修学院平八茶屋のファサードと川端通（鯖街道）の景色。室町時代以来の京都を構成する景色を見ることができます。
109. 現代化する中で、日本のもの、日本本来の文化が、失われていこうとする中、料理の分野で、和食の構成、あり方を見つめなおされ、体系化された高橋英一氏による瓢亭の料理は、京都の文化的景観の最たるもののひとつである。
110. 京都郊外の腰掛茶屋としての景色を今なお残し、茶室・庭の景色が京都のひとつ重要な景観となっている。
111. 明治以前の京都の様子を今なお残す景観が見られ、瓢亭さん母屋下家が丁寧に景観形成に寄与する。
112. 先斗町界わい景観整備地区の中でも、先斗町公園南側は重要界わい景観整備地域とされ、行政制度でも担保され、まちづくり・町並み保全の取り組みもあって、花街らしい先斗町独自の町並み景観が残っている。無電柱化も完了し、近世からの京都らしい景観が維持され、更には発展的に再生されている。
113. 寺谷川と宿坊美山荘の景観。中村外二工務店の建物と自然景。日本の山村集落の基本的な景色を維持しつつも発展させていく活力ある京都の本来の様子が残る。

114. 京都東山らしい料理屋景を残す座敷。
115. 花街先斗町らしい景色が大切に維持されている。
116. 最も京都らしい営み・生活を感じられる路地景が残る。
117. 江戸期からの通り・路地が残り、まちづくり・町並み保全によって古い町並みが、新しく継承されている。
118. 以前から市長の手紙やパブリックコメントといった取り組みはあったが、こういった気軽に意見を言える場所を用意していただけて嬉しいです。人数が少ないうちは特定思想に偏ったりするかもしれませんが、いずれは多くの市民からまんべんなく意見を集められるようになると良いですね。
119. オーバーツーリズムも困りますが、コロナの時のように外国人観光客のいない京都も、「らしさ」を欠いたようで寂しいものがありました。住人としては観光客の多さに眉根をひそめつつも、世界中から人がくる街であってほしいと思います。
120. 渡月橋付近の景観は、京都らしさがものすごく出ています。これからも、地域住民を中心に保全していければよいと思います。
121. 出張の度に通ってきたが、なぜ愛されるかなんとなくわかるようになってきた
122. 地元の行事やお祭りを通じて、改めて地域の繋がりが濃いことを認識した。これまで先人たちが守ってきた地域の大切な伝統や産業は、世代が代わっても残っていった欲しいと思う。
123. 中心部がかなり発展していて、色々な施設が揃っていて便利で困らない。なのに澄んだ川が流れ、野鳥がいる。たまにオオサンショウウオが流れてくる(笑)。都会なのにのどかな自然を感じられ、息苦しくないところが気に入っています。特定の界限では隣接自治体のほうが優れているという刷り込みがなされていますが、そうは思いません。圧倒的人口差・経済差がそれを証明しています。移住のメリットが家賃くらいしかありません。京都で最も発展している中京区・下京区の地価の高さはトップクラスですが、世の中の批判とは真逆で、区の人口は増加しています。だからこそ、今後も便利さや豊かさを失わないよう発展していくことが大切だと思います。

124. ゆったりとした路地の空間 広い歩道が大好きでよく散歩します。 街路樹の木陰の散歩道 木陰からもれる木漏れ日や秋風の心地良さが大好きで、学生の頃よく散歩をしたりサイクリングをして京都を素晴らしさを感じていました。 京町家のよさを生かしたカフェやお食事処 京都ならではの町家の造りがとっても雰囲気があって大好きです。 寺院や神社の厳かな佇まい 紅葉と世界文化遺産のコラボレーション 古都京都の素晴らしさの極みです。 京都ならではの街並みや建物の雰囲気がとっても大好きで、学生の頃から京都に住んでいます、ずっと大切に遺していきたいものばかりだと切に感じます。
125. 京都の地図を見るのが好きです。東山連峰などに囲まれた盆地を流れる鴨川、中央に広い緑の京都御苑、その少し南西の二条城。太秦、御室、先斗町、悪王子町、天使突抜、、等の味わい深い地名。東京に住んでおり頻繁には行けませんが、京都の地図を眺めることで、現地にいる気分になんか少しだけ近づくことができます。
126. 数多く点在する寺社仏閣
127. 東山総合支援学校に在籍してた時、 この通りを歩いていたから。
128. 他には無い雰囲気や情緒を感じられる町。空が広く開放感のある雰囲気が好きです。
129. 一人ひとりの暮らしの中に根付いている奥深い暮らしの文化。住んでいると気が付かないような、長い歴史で脈々と受け継がれた人付き合いのお作法、生きるためのマナーが詰まっている。社会性を磨き、品格ある人間を育てる風土。
130. 除夜の鐘、花びら餅、節分、ひな祭り、桜、青紅葉、葵祭、水無月、祇園祭、五山送り火、地蔵盆、時代祭、紅葉などの季節を感じる行事、和菓子、自然が好きです。
131. 地域の絆の強さ。
132. 混雑していなくて、ゆっくり散歩したり、読書するのにちょうどいい
133. 鴨川デルタ 街中にありながら自然が残り、市民のオアシスになっている
134. どんどん新しいマンションやホテルが建っていますが、それらが景観に配慮した京都らしい洒落たデザインで建てられており、そういったところが良いなと思います。街並みは諸行無常ですが、古く無骨な建物が新しくなって京都の魅力を上げていくという流れは失われないでほしいです。
135. 市街地から1時間もかからず自然豊かな場所へ。この自然との近さ、他の大都市にはなかなかない価値。

136. 年に一度、地域の安全と子どもたちの健全な育成を願う地蔵盆は、町内会みんなが力を合わせて準備・実施することで、住民同士の交流や協力が深まり、防犯や防災の観点でも重要な役割を果たしてきました。①少子高齢化による担い手不足と参加者の減少 ②地元町内会とマンション自治会との関係性の希薄化 ③行事開催場所の不足と気候リスクの増加 ①～③の要因等により「やりたいけどできない」との声が多く聞こえております 「地域みんな一緒に地蔵盆」合同で開催できないものかと考えております
137. 嵐山の渡月橋辺りの風景は子供の頃から変わらずとても懐かしい場所です。カフェなど増えて観光シーズンは大変混雑しますが、真冬の雪景色の嵐山が好きです。吹雪の時に車で通りましたが、水墨画のようで感動しました！
138. 大阪から引っ越してきて京都の各地で定期的に市（いち）が開かれているのには驚きました。天神市、弘法市、手づくり市は平日にも関わらず多くの人に参加されていて賑わいを感じます。市民の交流の場として残していきたい
139. いろんな街並み・景色を楽しめる市民の足。
140. 知恩院 三門 日本一の山門の圧巻の景色は残して欲しい
141. 大文字の送り火はじめ残して欲しい
142. 鴨川は京都に帰ってきたと感じられる場所。新緑、桜、紅葉、冬枯れの風景と四季を通じて楽しめる。川岸を歩くのもよし、車で通るのも好きな場所。御所や植物園も憩いのスポットです。
143. 歩いて楽しい「街並み」です。この街並みのなかに、建物を低く保ってきた努力の成果として東、北、西の山がしっかりと見える風景が含まれます。そして何より街並みの重要な構成要素は、町家を含む昔ながらの日本家屋で、それぞれの個人が建物や土塀の外観、庭師を入れて庭を整えています。もう一つ重要な要素が、チェーン店ではない、ユニークな店主のいる個店たちです。私は渋谷から移住し、いまは上賀茂エリアに住んでいるのですが、ここのコミュニティはすばらしく、街へのオーナーシップを日々感じるすることができます。公園の掃除イベントが回覧板にはいって、当日は公園が人であふれるほどの住民が集まり、一気に落ち葉を一掃しました。私は、「100年後にもっと美しい京都をつくる」ことに関心が強く、それは個人・コミュニティの意識の高さにいまは頼っているのですが、その努力をもっと後押しすることで、「残す”を超えて、もっと美しい街並みを”つくる”」ことに向かいたいと思っています。ピンを置いたところは私の家のある、上賀茂神社からの小川が流れてくる通りです。普通の通りが、これほどに美しい。それが、京都の底力だと思います。

144. 建物が低く朝日や夕日が横から差し込み、足元には長い影がある、そんな風景が、残っていて欲しい
145. 河原町などの中心地はいつ訪れても 観光客が多く建物も多いですが、鴨川が綺麗に保たれていて、その風情がなんとなく品のある街と感じさせてくれるといつも思います。
146. 学生時代に過ごした京都の全てをできる限り残してほしい。時代や観光との兼ね合いも理解できるが京都にはできると思っています。
147. 京都以外でなかなか体験することができない川床。盆地で夏は暑い京都を、目で涼しくする風流さが京都らしいし、1年に1度は行きたくくなります。
148. 日常からのリフレッシュ。
149. 昔から皇室との関係が深い八瀬の人たちが、毎年10月11日の夜に行う祭りのミステリアスな雰囲気、京都らしさを感じます。
150. 街を保全するためには京都の不動産を外国人投資家に買われないようにする仕組みが必要
151. 他の都市とは違った古の空気感を纏ったところ。ちょっと違う街に来たなと思わせてくれる。
152. 素晴らしい雰囲気と美味。場所柄化、観光客が少なく、地元の方に愛されている感が一層よい雰囲気を醸し出してくれています
153. 四富会館、ユニバース会館をはじめとしたディープ酒場、京都のナイトシーンを支えてきた metro など、カルチャーの発信地を存続させてほしい
154. 京都 Graphie や Ambient Kyoto のおかげで、普段とは違う施設や寺社仏閣の姿が見れるので楽しいです。また国内外問わず、大御所～新進気鋭のクリエイターの作品をみることができ、「アートを見る」という切り口で京都市街を見て回れるのも新鮮です。
155. 京都国際会館、大山崎山荘、河井寛次郎記念館など、歴史的にもデザインの的にも貴重な建築群 今では到底建てられない建築たちの保存を頑張ってもらいたいです。

156. 学生や家族連れ、子どもたち、楽器の練習から読書に訪れる人など、様々な人がデルタ周辺に集まってくることは、日本にある大きな河川の中でも京都にしかないと感じる。 四条～三条にかけての人の多さも出町柳周辺では穏やかで、糺の森や下賀茂神社への観光客も比較的少ない。 人が集まりたくなる場所で、その周辺で暮らす人においてはアイデンティティが形成されるほどの力があると思う。 京都市内の中でも、まだ”京都”が保たれていると感じる。

157. 碁盤の目のような町並み

158. 錦市場は、豊富な地元の食材やお土産が並ぶ活気ある場所です。新鮮な京野菜や海産物、伝統的な漬物、甘味など試食しながら歩くのが楽しいです。また、店員さんたちの親切で丁寧な接客から、京都らしい「おもてなしの心」を感じます。

159. 町の風景、風情がすごく好きです。そこそこの大都市なのにも関わらず、どこに行ってもなんか観光地っぽい、コンクリートジャングルの都会とは違う感じがするのがすごく魅力的だと思います。京都を訪れるたびに観光客気分になります。

160. 陰翳深い庭の景色

161. 京都のラーメンは独自性があり、文化・ブランドとして残していただきたいと思っています。 一条寺のラーメン街は最高。

162. 北山は京都のこじんまりとしたオシャレタウンです。コロナ後は賑わいがなくなってきていると感じます。積極的な北山のPRも行っていたきたいと思っています。

163. 鴨川の亀石で小さい頃はよく遊びました。鴨川の遊歩道を走ったり、亀石を飛んで渡ったり、今となってはかけがえのない思い出です。今もあるようで、鴨川を見るとタイムスリップしたような気持ちになります。

164. わざわざでかけなくても見られる立派な桜や紅葉が点在していること。一本だけの桜でも、とても立派

165. 昔から変わらない風景。 京都市民の癒しだと思う。

166. 京都には明治維新ゆかりの地が多数あり、維新好きは当時に思いを馳せる胸アツスポットです。

167. さざんか亭（全国から集まる大学生たちがお酒の怖さを知る場所）

168. あの川の周りにいるときに、何となく時間を忘れることができる感覚がある。

169. 大阪も立飲み文化は盛んですが、京都の10人入れば満席といったアットホームな会館飲みも素敵です！
170. 比叡山から見える京都市の風景。御所を囲むように広がる街並みと緑の多さ
171. 公園で食べた豆腐は良い思い出になりました
172. ・建物の高さが低い→特に鴨川の向こうの山の景色が見える／鴨川沿いの建物が景観を圧迫していない（マッピング箇所） ・日本家屋の建築が残されている ・庭文化で都会でも緑が随所に感じられる ・街中に佇める場所がある（鴨川沿い）
173. 任天堂やロームなど大企業が多数ある一方で、大きくはないけど工芸品の製造など何百年も続くようなお店があったり、大学も多くアカデミックな街であったり、海外移住者の方もいらしたり、多様性が根付いている京都は自分が好きなことや得意なことを見つけて実現している人が多い印象があります。
174. この店は古き良き京都を感じてます。長いテーブルで飲んでいると、必ず横の人と仲良くなります。
175. 京都が人気の理由は歴史と寺社仏閣だと思います。寺社仏閣からは教科書に出てくるような壮大な歴史を感じることができますが、京都の昔の人たちの暮らしを感じるのは町家や古い家屋なので、そういう身近な暮らしの歴史の一部をいつまでも保存していただきたいです。
176. 他の都市がバンバン大きいビルが建って個性がなくなる中、昔の街並みを大事にしつつ街が呼吸するように生きている姿は変わらず、アップデートしながらずっと続いて欲しいと思います。
177. 洛中エリアの街中に点在する昔ながらの和菓子のお店はずっと残って欲しい
178. 時間が止まっているからです
179. 任天堂、京セラ、佐川急便、ワコール、オムロン、ローム、ニデック、餃子の王将・・・他にもまだまだあります。京都と共に育ってきた企業、京都だからこそ大きくなった企業、色んな地元企業がこれからも活躍し、また新たな企業も生まれ育ってくれれば良いなと思います。

180. 【住民自治活動と市民活動】 明治時代の小学校区である元学区ごとに展開されている住民自治活動と、住民が興味・関心ごとに基づき自発的に活動されている市民活動。どちらも他都市には見られない独自の発展を遂げているように思います。願わくば、それら活動がお互いにもっと交流しあい、力を貸し合えるようになる 2050 年の京都市を夢んでいます。
181. 鴨川とは違う意味で、みんなが目的なく、思い思いに自由なことをしている場所になっています。休みの日のおじさんも、子どもも、野良犬も。とても大きいことが、適度な距離感をつくっています。
182. 千年の都と称されている京都ですが、私は学生の頃に学校の修学旅行に行ったことがあります。その際に、多くの文化財があって、私も遠くから見ていましたが、「京都って、文化が育まれているな」と感じました。その文化財を未来につないでいくためには、先人たちが築いてきた思いを継承していく必要があると思います。ぜひ、その点を考慮して、今後の長期ビジョンの策定に取り組んでほしいと思います。
183. 京都鴨川からの眺め！ 飛び石は鴨川を肌で感じられる大事な場所 そこからみる遠くの山並みは 1000 年前の人たちも同じ光景を見ていたと思うとワクワクする。高い建物は増えたが、山並みなど 大きなランドスケープは変わらずに見えること。そこに京都という器を変えずにもつところがいい。
184. 世界中の都市を見てきましたが、ここまで広々と気持ちよく、治安もよく、自由度のあるパブリックスペースは、世界的に見ても珍しいと思います。ベンチなどの公共インフラの量もちょうど良く（あまり多くなっても自由度がなくなり窮屈になる）、柵がないなど、市民が個人の責任に水辺にアクセスできるのも、とても素晴らしいことだと思います。動物がいて、人間と共存しているのも良い。京都の宝だと思います。デザインしすぎず、ルールを設けすぎず、ある程度自由奔放に市民が使いこなしている様子が、京都らしいです。半裸で日光浴をしているおじさんやドラムの練習をしている学生などを見ると、その気ままさと自由奔放さに、ああ今日も京都は京都だなと感じます。それは、京都の自治的・インディペンデントな雰囲気に通じるものがあると思います。
185. 左上：愛犬 右上：地域猫のジャック（みいちゃんとも） 左下：息子の人生初散歩 右下：独り望む凍晴の北山 水、植物、動物、そして人が 儂くも尊く生きて死んできだ蓄積の上に 私たちが愛する今日の京都が存立しています。足を運ぶ度に新しい感動を与えてくれる鴨川とともにささやかに生きて死んでいきたいと思います。

186. 住むにも働くにもリフレッシュするにもちょうどいい！ 大きな都市では、移動に時間がかかるが、コンパクトな京都は歴史ある建物とまちと自然の距離が程よい。上：休みの日にランニングに出掛けると、自然を感じられる。疏水はみどりも多く、この時期でも涼しく走ることができる。下：日本三大祭のひとつ、祇園祭で有名な八坂神社の雪景色を通勤時に見ることができ、なんだか得した気分でした。歴史あるまちの良さを日常で感じられる京都がイチオシ。 東山区で働いていると、海外の方に声を掛けられることが多く、国際的な交流が盛んに行われていること 歴史ある建物を身近に感じられること ランニングに出掛ける際に、地元のおじいちゃんおばあちゃんに声を掛けられること

187. 友人と話していたときに、うまい飯屋とコーヒー、パン屋と本屋、あとはレコード屋があれば住めるよね、という話になりました。 これらの業種やそもそもお店に限らず、京都にはこうしたインディペンデントの空間が都市のなかにぽつぽつと広がっていて、自転車でぐるっと巡れるのが良いところだと考えます。 そこに、時間も人目もお金も気にせずいつでも立ち寄れる鴨川が縦断しているのが最高です。写真は下鴨納涼古本まつりです。 物好きというか、偏りを許容するカルチャーが意外とあるのが京都らしさかもしれません。 また、新旧の建物が入り混じって、そうした人たちがなにかを始めたり、（もちろん厳しさはあるのですが）続けていけるあわいのようなものが残っているのが京都の魅力だと感じます。

188. 観光地や人でにぎわう繁華街の印象が強い京都だが、大通りから一本外れた細い道がとて魅力的。 マンションの隣に年季の入ったお店が並び、その間に新しいカフェがひっそりとたたずんでいる。 何でもない通りを歩いていると、このお店は何だろう、と覗いてみたくなり、歩くたびに新しい発見がある。 京都は、なにげない風景にこそ面白さが溢れていると感じた。 京都は古いものを守りながら、新しいものをうまく混ぜ合わせて発展させてきたところなんだなということが、街並みからも感じられる。

189. 特に、巨大な木造建築・南禅寺三門が大好きです。 遠くからでもその圧倒的存在を感じられる迫力に武者震いし、近づけば繊細な造りの門・柱に歴史を感じて。「この門を入れば 涼風おのづから」と刻まれた石碑がある通り、三門に腰掛けてふと一息つくくと、どこかからやってきた涼風が全身を駆け抜けていきます。 上階にあがると、京都市内が見渡せるのも最高です！ 「風」が京都らしいなと思います。涼風は京都の音（水や木々のざわめき、人の声）だけでなく、匂い（木造建造物や山の木々）も運んでくれ、五感で京都を体感することができます。

190. 喫茶店でも、バーでも、銭湯でも、居酒屋・食堂でも、ふらりと立ち寄るとなぜか見知った顔に出会える、心地よい空間が京都のまちにはたくさんあります。京都で暮らす皆さんお一人お一人にとっての、人とのつながりが感じられる「お気に入りの場所」がそこかしこにある、そんな京都のまちをこれからも守り、支えていきたいです。自分のお気に入りの場所に足を運び、気の置けない友達にも紹介していき、こうしたゆるやかなつながりの中でその価値を紡いでいく「常連」の輪が広がっていくものです。そういう常連の厚みはその町の文化の力であり、京都らしさを感じるところです。

191. 京都市民や観光客にとって多彩な魅力を持つ憩いの場である鴨川デルタ。ここでは、歌を歌ったり、ギターを奏でたり、のんびりと昼寝を楽しんだり、軽い運動をしたりと、老若男女問わず、思い思いの時間を過ごすことができます。私たちの会社は、この鴨川デルタ周辺にオフィスを構えています。そのため、私は仕事の合間にリフレッシュしたいときは、この場所を訪れることが習慣となっています。鴨川デルタの開放的な雰囲気と自然の豊かさに触れることで、心身ともにリラックスし、新たな活力を得ることができるのだと思います。鴨川デルタは、京都の奥深い精神を静かに表現している場所であると言えます。都市と自然の調和、伝統と現代の共存を象徴し、四季折々の美しさを楽しむ文化を多くの人々に印象づけています。ここでは、老若男女を問わず、多様な人々が互いを受け入れ、共存するという京都独特の生活哲学が自然と実践されており、この空間はまさに「和」の精神が息づく、京都らしさの縮図と言えるのではないのでしょうか。

192. ここは街中の境内ですが、京都にはお地蔵さんが多いです。前掛けをしていたり、祠に納められていたり、花が供えられていたり。それは、誰かがそのお世話をしているということです。お地蔵さんも自然と溶け合いながらその場に、そこに生きる人々とともに生きているのが感じられますね。京都を歩いているとお地蔵さんとよく遭遇したり、川縁を歩けばそこに古くに植えられた桜が枝を伸ばしていたり、子どもが飛び石で遊びもすればお爺さんがベンチで日向ぼっこしていたりします。1000年を超える長い歴史のなかで人と場が互いに培ってきた風土、その緩やかな時の流れは、私たちを立ち止まらせてくれます。

193. とにかく夕焼けが綺麗！平安神宮の鳥居や京都タワーなど新旧の京都が見渡せるのも好きなポイントです。山に囲まれた京都ならでは！

194. 和風の建物ではなく、大正モダン建築でカッコいいから

195. 京都ほどそこそこの大きさの寺や神社、絶対に歴史的にすごそうな建物が至るところにある都道府県は無いのではないかと思います！人々の生活のなかに当たり前に歴史的な建造物があるのは京都らしさだと思います。